

- 1 教育事業名 「とかしきチャレンジキャンプ2022」
- 2 ね ら い 課題を抱えた子供たちが渡嘉敷島の豊かな自然に心を癒され、成功体験や周囲からの称賛により自己肯定感を高め、仲間との共同生活、活動を通して、信頼や感謝する心を育み、心身ともに成長する場になることを期待し、本事業を実施する。
- 3 期 日 令和4年 8 月 17 日(水)～8 月 19 日(金) 2 泊 3 日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 連 携 団 体 沖縄県社会福祉協議会
- 6 参 加 団 体 「基督教児童福祉会 愛隣園」
- 7 参 加 人 数 児童15名 職員5名 計20名
- 8 講 師 ○火起こし指導 ○昔語り ○クラフト指導
照屋 寛信 氏 (手作り遊び工房ふぁーかんだー)
○海洋研修サポート ○事業運営サポート
森 有紀子 氏 (NPO 海の自然史研究所)
- 9 プログラム



カヌー体験

とかしきチャレンジキャンプ 事業日程

8月17日 (水)	中潮 満潮10:23(183cm) 干潮16:30(59cm)																							
	8:00		9:00	10:00		11:10		11:40		12:00	13:00		13:30		15:30		18:30		19:30		21:00		21:30	
		児童園 出発	泊港着 乗船受付 乗船	フェリー 出航	渡嘉敷港着 移動		入村 OR		昼食 (弁当)		開講式		テント設置 ※早く設置を終えた班は ビーチコーミング		火起こし 野外炊事		入浴 ゆとりの 時間		ボンファイヤー 昔語り		就寝準備 振り返り		就寝 テント泊	
8月18日 (木)	中潮 満潮11:14(165cm) 干潮17:05(79cm)																							
	6:00		6:30	8:30		9:30		12:00		13:00		15:15		16:00		17:00	17:30	18:00	19:00		21:00		21:30	
	起床 洗面 健康 チェック	テント 底上げ	テント 撤収	海洋研修Ⅰ 大型カヌー、オープンカヤック、 水泳 ※入水できない参加者はクラフト体験				昼食 (弁当)		海洋研修Ⅱ スノーケリング、 スーパーフロート、水泳 ※入水できない参加者はクラフト体験			片付け 着替え		移動		入所 OR	休憩	夕食	ゆとりの 時間	就寝準備 振り返り		就寝 本館泊	
8月19日 (金)	小潮 満潮12:18(148cm) 干潮17:44(98cm)																							
	6:00		7:40	8:45	9:30		11:45		12:00		12:45		14:30		14:50	15:00	16:00	17:10		18:30				
	起床 洗面 健康 チェック	朝食・ 出発 準備	清掃 点検	平和学習				休憩		昼食 (レストラン)		クラフト		開講式		移動	乗船	フェリー 出航	泊港着 児童園へ出発		終了			

10 事業の様子



テント設置



火起こし体験



カレー作り



夕陽を見ながら昔語り



夕食の様子



ボンファイヤー



大型カヌーに挑戦



スノーケル体験



平和学習

11 参加者の声(アンケートより)

- ・海で泳ぐのが楽しかったです。カレーをみんなで作って楽しかった。
- ・カレーは、自分で作ったとは思えないほどおいしかった。
- ・海がきれいで感動しました。また来たいです。
- ・海でたくさん泳げて、貝殻拾いもできて満足した。
- ・大型カヌーに乗って楽しかった。水泳をもっとしたい。
- ・テントを建てるとき、くいを打つのが難しかったけどだんだんやってみるとかんたんだった。
- ・テント泊は暑くて、夜中に雨が降って大変だったが、よい経験になった。
- ・夜テントの中が暑くて眠れなかった。
- ・暑さがきつかったが、テント泊はなかなかできないので面白かったし、楽しかった。
- ・ボンファイヤーで、昔の物語を聞くのが楽しかった。
- ・隙間時間にやったクラフト活動が楽しかった。
- ・ずっとこっちにいたいと思った。
- ・うれしかった。楽しかった。元気が出た。
- ・安全管理や臨機応変な対応などに助けられました。

12 担当者所見

(1) 成果

- ・コロナの影響を受け、多くの行事が中止となる中、施設側の万全なコロナ対策(施設側の自主的な事前PCR検査の実施も含め)のおかげもあり、開催することができた。スタートから子供達の事業に対する期待を感じ、海洋研修、火起こし、カレー作りなど一つ一つのプログラムに熱中して取り組む様子を見ることができた。思い出に残る3日間になったと思う。
- ・普段はそれぞれ別々の施設で生活している子供たちが、様々な活動を行っていくうちに、協力しようとする姿が見られるようになった。
- ・最終日の平和学習では、語り部の話を熱心に聞き、戦争について考え、戦時中渡嘉敷島で起こった出来事についてそれぞれの感想や考えを持った様子が、アンケートから伺えた。

(2) 課題

- ・参加者の1年生1名が、2日目の午前・午後の海洋研修に夢中になり、休憩・水分補給が不足したこともあり、熱中症の様な症状で発熱し、コロナ疑いということで最終日に全体の日程を切り上げて帰ることになった。真夏の海洋研修は、体力のない児童にとっては楽しい反面、厳しい状況にもなるので、余裕をもって取り組める日程にした方がいい。
- ・テント泊では、暑さのため、また夜中に雨が降ったことも重なり、寝苦しく熟睡できない参加者が多かった。それも含めての自然体験ということではあるが、実施時期を考えるとどうしてもという参加者に対しては、あざみ等の活用も含めた事前準備と、企画段階で施設側の職員とも話し合い、テント泊の実施の有無も検討が必要と感じた。